

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	新住民支援ネットワーク事業
対象地域	広島県三次市・庄原市・安芸高田市・廿日市市・北広島町・安芸太田町・神石高原町
活動概要	<p>[テーマ]田舎暮らし希望者と受け入れたい地域のマッチングとサポート [地域の課題] 過疎高齢化する中山間地は地域社会の維持や農業の後継者育成もままならない状況が深刻化している。一方団塊の世代の5割以上の人々が定年後はできることなら田舎で暮らしたいと応えている。しかしながら、UターンやIターンにはさまざまな思いもかけない障害や難問が待ち受けていることが多々あり、容易には田舎暮らしができないことを、過去の事例が示している。それらの原因は、新たに住民となった人たちをサポートする態勢や支援者、仲間作りのネットワークがないことが大きな要因となっている。</p> <p>[事業の目標] 1、田舎暮らしを希望する人と受け入れる地域とをマッチングさせる仕組みづくり。 2、田舎暮らしをする為のアドバイスや支援をするネットワークづくり。 3、定住前、後の支援を目的にしたサポートセンターの設立。 4、過疎地域の新たな担い手としての新住民の発掘・育成。 以上を3年で整備し、広島県の過疎地域の新たな担い手の発掘と活性化に寄与したいと考える。</p>
今年度の主な取組	<p>田舎暮らしを希望する人が、移住する前に地域の現状等を学ぶことのできる「田舎暮らしの学校」の実現のための検討と、ITを活用した田舎暮らしの支援・援助等を行う「田舎暮らしサポートセンター」の試行により、そのしくみが中山間地における人材確保と地域づくりに有効か検証を行う。</p> <p>①田舎暮らしを希望する人のための「田舎暮らしの学校」開校に向けての準備を行う。(教習用プログラムの作成等) ②「田舎暮らしの学校」を試行する。 ③「田舎暮らしサポートセンター」の開設に向けての準備を行う。(協力者の確保等) ④「田舎暮らしサポートセンター」を試行する。 ⑤上記の活動の成果を踏まえ、「田舎暮らしの学校」、「田舎暮らしサポートセンター」の地域の人材確保と地域づくりに対する有効性を検証する。</p>
活動結果	<p>新住民と地域の意識や課題の抽出と、自治体や関係団体等との協働やネットワークが少しずつ出来てきたことによって、地域全体の課題としてみんなで取り組む意識が醸成された。</p> <p>また、既に田舎暮らしを始めているが地域との関係作りがうまくいっていなかった方々とネットワークができ、新住民の方々が現実にはいろいろと悩み困っていることも本音で聞くこともでき、地域の古い慣習等の改善点や、旧住民と新住民の交流・対話の糸口が見えてきた。</p> <p>定住・交流関係の地域情報の集約までは至っていないが、県・市町の参加によって、自治体、地域企業・団体、住民をネットワークする協力体制ができ、情報のボトルネックが改善できる目途がたった。</p>

<p>当初予想していなかった効果</p>	<p>本事業が多くのマスコミに取り上げられ、報道や新聞掲載されたことで、地域や自治体への認知や関心が広がり、他地域からの協働での取り組みの希望や、事業の受託要請等の話がきている。</p>
<p>実施状況(写真)</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>【写真】 地域ヒアリングの実施 テレビ取材の様子</p>
<p>応募団体名</p>	<p>特定非営利活動法人やまなみ大学地域自立支援センター・中国山地やまなみ大学・大朝まちづくり有限会社</p>
<p>リンク</p>	<p>www.yamanami-net.jp/shinjyumin</p>
<p>部局／担当者名</p>	<p>特定非営利活動法人やまなみ大学地域自立支援センター 理事 山本 正克</p>
<p>連絡先</p>	<p>0826-82-3993 cc50y@yamanami-neto.jp</p>
<p>推薦市町村名</p>	<p>北広島町</p>